



號 九 十 四 第  
 月 十 年 六 十 和 昭  
 行 發 日 十 一 月 每  
 行 發 日 十 一 回 一 月 每  
 錢 五 金 部 一 價 定 誌 本  
 錢 拾 六 金 (共 稅) 年 一  
 一 才 田 杉 編 發 行 發 行 東  
 一 〇 七 西 座 銀 區 橋 京 市 京 東  
 社 信 通 盟 同 所 行 發

# 新聞新體制について

社長 古野伊之助

時局の要請に應へて新聞新體制は目下新聞聯盟を中心とする其具體化を急ぎつゝあるが、左は同盟總支社長會議に於ける古野社長の講述要旨である。

## 國際情勢の深刻化

國際情勢は益々深刻化し、世界の各國は其好むと好まざるに拘らず第二次大戦を経過しなければならぬ方向に來てゐる。

吾國としては徹底的に世界無比の軍備を確立し、これに依つて大東亞共榮圈を防衛せねばならない世界無比な陸海空軍を確立する爲めには國家のあらゆる智能も、産業も努力も物資も悉皆國家目的のために集中強化して行かねばならないと云ふ見地から、凡ゆる分野に於て國家統制が實現されて來てゐる譯である。而して國家目的に副ふやうに、新しい體制を作つて行く事は仲々容易な仕事ではないが、しかし世界の情勢が之を絶對的に必要とし、苟も日本が將來發展する國家であり、其民族が飛躍する以上、萬難を廢除して所謂新體制を確立して行かなければならぬこと論を俟たない。

## 新聞新體制の眼目

右の觀點に立つて改めて日本の新聞界を觀察する必要がある。明

治維新に日本の近代國家を完成すべく勉をなしたものは新聞である。と云ふことを振り返つて考へると同時に、この新しい世界の轉換期に於て、日本の新聞界は過去のまゝの姿であることは許されない。

成程日本の新聞は編輯部面から見る限り國家に對する協力と云ふ點に於て世界の何れの新聞に比して勝つて居るが一方經營部面に於ては明らかに自由主義そのものである。新聞は社會的見地から見ると、社會の公器であり、天下の指導機關たるに相違ないが事業經營の實體は徹底的に營利企業であるこの兩局面から來る各種な矛盾を解決しない限り、日本新聞事業は眞に公的機關として、來るべき時代に國民を指導する立場を確立することは出来ない。この矛盾を現實の問題として、どう清算するかと云ふことが新聞新體制の一番大きな眼目だと思ふ。

## 新聞聯盟の役割

經濟界全般が國家目的の協力體制をとりつゝある時、新聞事業は寧ろ率先して新體制を確立せねばならぬと云ふ議が起り、茲に新聞聯盟が生まれ、これが中心となつて日本の新聞事業の自主的統制に當ることとなつたのである。

時局の推移に伴つて新聞事業全體をどう云ふ方向に向けて行くべきかと云ふ事が第一の問題であるが、理想と實際、理論と現實の間に論議が重ねられ、實際問題とし

古野社長の訓辭



ずしも讀者が必要としない紙量に迫上つてゐる。今同この無駄を節約することに期せずして意見の一致を見たのである。紙の節約の一番大きな眼目は共同販賣組織にあると當初から考へて來たのであるが、話は非常に順調に進んで中央地方を通じて全國の新聞の總發行部数の恐らく八割五分乃至九割を占めてゐる理事會に於て共同販賣組織確立に乗り出すと云ふことになり、これと並行して編輯委員會業務委員會、廣告委員會、販賣委

ては、紙の節約を中心とする卑近な問題から取り上げた。東京、大阪の大新聞は全國新聞紙使用量の七割乃至七割五分を占めてゐる。この老大な新聞紙は各社各自の販賣店を通じ販賣擴張を強行してゐる爲、其發行部数は必

置くことになつた。これにより新聞は共同販賣所一本で販賣されることになり、従つて從來の如き無理な販賣競争はなくなり、國民の要求される新聞は賣れるが、要求されぬ新聞は如何に販賣技術が巧みでも賣れないと云ふ根本原則が確立された譯である。兎に角日本の新聞界は其發祥以來、大きな革命的段階に達したものと、私は心秘かに喜んで居る。

これに伴つて當然起つて來るものは良き新聞製作と云ふ所へ從來の新聞界の競争が集中することになる。これに對しては一種の編輯統制委員會と云ふものを作つて、そこで眞剣な批評審議をすることによつて、新聞の國策協力へと云ふ方向を明示し、以て新聞の本質向上に資する様になると思ふ。

次に一縣一紙と云つても例外がある。即ち東京を初めとして大阪名古屋、福岡等であるが、此等の新聞をどう合併統合するかは目下新聞聯盟の理事會で審議の中心問題になつて居る。

次に經營部面に於ては當然廣告料率の公定と云つた様なものが問題に上ると思ふ。廣告取次に當つては恐らく從來發行部数が秘密主義で來た結果、随分不合理な點も多かつた。所が共同販賣制度の確立に附隨して、當然新聞の發行部数と云ふものが公開されることになり、廣告料率の公定と云つたものも自然行はれる譯であり、一應日本の新聞事業と云ふものは非常に合理的な明朗な基礎の上に置かれることと思ふ。そこで最後に残つて居る新聞事業の合併統合と云ふことが問題になつて來る。

現在新聞と稱するものは五百ばかりあるが、しかしこの際國家的見地に立つて、不必要なものは處清算して行く方が妥當であると云ふ觀點から一縣一紙と云ふ様なことが出て來てゐる。

一縣一新聞  
 現在新聞と稱するものは五百ばかりあるが、しかしこの際國家的見地に立つて、不必要なものは處清算して行く方が妥當であると云ふ觀點から一縣一紙と云ふ様なことが出て來てゐる。

以上折角論議の最中であるが、大體の模様から云ふと今迄通りの數では少し多過ぎるから一、二紙づゝはそれ〴〵統合整理することが妥當なりと結論されるのではなからうかと想像して居る。

中央紙の統合  
 これから生れて來る縣の新聞は從來の如き自由主義、個人主義的なものではなく、縣の公共機關であり、公共事業であると云ふ建前を確立する様な方向へ進めて行き度と思ふ。

（文責記者）



# 總支社局長會議

社内新體制確立後初の同盟通信社全國總支社局長會議は十月十一日より四日間に亘り本社八階會議室に於て開催

滿洲國通信社及び地方側から

福岡大阪、吉川名古屋、塚本關門、麻生福岡、淺野京城、荒尾豐原、山崎札幌、瀨川函館、川口旭川、荻原小樽、蒲田青森、古川仙臺、藤澤秋田、古川桐生兼足利(主任)今井川崎、成田横濱、久原豊橋(主任)落新瀉、中住長野、鹽崎岡谷兼松本(主任)、小栗甲府、樋口富山、櫻金澤、青木福井、福井京都、川島神戸、松宮岡山、周藤廣島、酒井徳島、山下高松、山田松山、植松高知、岡本大分、田端長崎、河邑熊本、吉井鹿兒島(事務取扱)益崎臺北、大瀧臺南、磯部釜山、鈴木清津、岡本平壤の各支社局長、佐々木北支、松方中支、横田南支の各總局長、波多河内支局長、久保田大阪編輯部長、近藤大阪通信部長、高見國通編輯局長、藤川新支社、小林國通聯絡部長

本社側から古野社長以下、上田、堀各常務理事、伊藤、小畑兩參與、松本編輯、鷹嘴通信、塚本經濟各局長、大平編輯局長、石部總務局長、田村通信局長、各部局長、參事並に新聞聯盟より岡村事務局長等出席、連日に亘り眞摯な論議が續けられ臨戦下同盟使命達成に大いに寄與するところがあつた。

尙右に引續き日滿支經濟會議を

十月六、七の兩日に亘り開催、内地六大都市の經濟通信及び東亞經濟通信に付熱心なる協議を行ひ多大の成果を収めた。經濟通信日滿支協議會地方側出席者左の如し。

福岡大阪支社長、秋山同經濟部長、高岡業務部長、吉川名古屋支社長、川島神戸支局長、成田横濱支局長、福井京都支局長、佐々木北支總局長、戸澤同經濟部長、阿部同通信部長、松方中支總局長、瀧口同經濟部長、豊田同業務部長、磯田同通信部長、横田南支總局長、松尾同通信部長、藤川新支社長

の概況につき報告あり、休養食の後午後一時再開日程に戻り松本編輯、鷹嘴通信、塚本經濟、松本調査各局長より挨拶並に所管事項につき説明及希望を述べ次いで松本編輯局長より一般情勢に關する説明あり、午後三時四十三分三度日程を變更して第二日の日程たる非常時對策の件々を繰上げ上程

富士常務理事より非常時對策に關する大綱方針につき説明、鷹嘴通信局長より非常時の通信施設につき、石部總務局長より同上物資及經理に關し説明の後質疑應答があつて午後四時五十分終了(このとき社長外出先より歸社臨席)再び日程に戻り現地報告を續け京城支社長、札幌支局長の實情報告ありて午後五時四十分散會。

## 第一日 十月一日(水)

午前九時本社八階會議室に於て開會、宮城遙拜、皇軍將士の武運長久と護國の英靈に感謝默禱の後司會者鷹嘴通信局長開會の辭を述べ、古野社長より約一時間に亘り世界戰爭の渦中に於ける我國の立場と同盟の使命、社員的心構へにつき力強い訓示があり翼賛會と同盟支社局長の立場についても言及しその纏ふ所を明示した。

次いで各局長の挨拶に入り、松本編輯局長より一場の挨拶並に總務局所管事項に關する指示あり、日程を變更して社長より新聞聯盟に關し經過、現状、新聞聯盟成立の経緯、今後の見透し等につき演述あり、その後をうけて岡村新聞聯盟事務局長挨拶を述べ更に日程を變更して主要總支社局長の現地報告に移り、福岡大阪、吉川名古屋、麻生福岡の三支社長より支社

より編輯局關係事項の議事終了に付總括的挨拶を述べ午後六時十分散會。

第三日 十月三日(金)

午前九時開會田村通信局長議長進行係として通信局議題の續行次いで十時十五分松本調査局長進行係の下に調査局議題に移り、最後に社長より調査局設置の趣旨目的及情報部の任務等につき詳述最後に松本局長より挨拶を述べ尙調査局が日比谷の市政會館にあるため目下聯絡上不便の點ある旨附言し、後刻現場を見學すること、し調査局議事を打切る。

十一時三十分石部總務局長議長進行係の下に總務局の議事に入るに先立ち社長より同盟職員會及青年團の件に關し設立の趣旨目的及運営方法に關し説明あり、特に職員會に關しては所謂隣組の機能を發揮すべきこと又建議案は一つ、必ず結束をつける旨言明あり十一時四十分議事に入る。

正午全國民と共に銃後奉公強化運動第一日に際し皇軍の武運長久祈願と護國の英靈追悼のため默禱を行ひ午後零時十五分休養食後六階の中央電信局同盟分局見學引續き市政會館に赴き調査局各部の實況を見學。午後一時五十分再開日程を變更し總務局の議事を後述しとし、經濟局關係の議事に入る(塚本局長進行係、午後三時三十分塚本局長の挨拶を以て經濟局の議事を終了、總務局關係の議事再開石部總務局長議長進行係)以上を以て各局の議事を全部終了。司會者より三日間に亘る一般會議は茲に滞りなく終了せる旨を告げ、社長より各員の勞を謝すと共にこの非常時に際し同盟の任務益々重大なることを繰返し訓示し眞に身を以てこの難局に殉ずる覺悟を要望し、司會者より感謝の挨拶を述べ同盟通信社の萬歳を三唱して午

## 第二日 十月二日(木)

午後五時五分散會。なほ總支社局長等は日本映畫社招待の築地延壽春に於ける晚餐會に臨んだ。

第四日 十月四日(土)

午前九時より各總支社局長等は七班に分れ社長、島山、上田、堀各常務理事、編輯局長兼調査局長通信局長、經濟局長に各一時間づつ個々面談を行ひ地方的具體的問題につき隔意なき折衝會談を遂ぐ午後五時一同八階會議室に集合社長より改めて各員に對し協力一致今回の會議の成果を十分發揚せられんことを要望し、總支社局長側を代表して福岡大阪支社長より深厚なる謝意を表し、今後、隨時社長より社員の纏ふべき所を御示しあらんことを希ふと共に粉骨碎身御期待に副はんことを誓ひ社長の發聲にて天皇皇后兩陛下の萬歳を奉唱、次いで横田南支總局長の發聲にて古野社長の萬歳を三唱し茲に四日間に亘る總支社局長會議は多大の收穫をあげ非常時に對處すべき確乎たる信念と、不退轉の決意を愈々鞏固にし眞に意義深き感激の裡に閉會した。尙一同は午後六時より社長招待の銀座エリオンに於ける晚餐會に出席した。

編輯局議題

- 一、企劃記事並に各種解説記事社説に對する各新聞社の反響並に希望如何(整理部)
- 二、記事研究會の運用と支社局側の希望(同)
- 三、最近の記事取締動向について(査閱部)
- 四、減頁對策、綜合編輯方針の強化並に専門化(政經部)
- 五、時局下政經ニュースの取材編輯方針について(同)
- 六、閣議、會議記事、人事往來、豫報記事の取扱について(同)

通信局議題

- 一、地方向送信する記事並に地方より本社に送信する記事の整理に關する件
- 二、支社局に對する豫告注意事項の取扱に關する件
- 三、同報無電と電話送信の調整に關する件
- 四、同報無線機器特に電池保守に關する件
- 五、大陸向ローマ字放送の改善に關する件
- 六、地方及大陸記事中外人名のスペルにつき要望の件(以下五頁へ續く)



# 職員會報

秋だ、臨戦の秋、仕事の秋、勉強の秋、保健の秋、我々社員は結成以來早くも五ヶ月を算へた。最近の國際情勢は我が同盟に更に重き使命を課してゐる。我々の仕事の一つ一つが直ちに祖國の繁榮と結びついてゐることをいままさらながら痛切に感ずる。職員會の發足に際し古野社長は言つた、——同盟三千の社員が結盟の精神に燃へて職場が異らうとも年齢が相違しやうとも一九となつて報道報國に邁進するのみ——とこの言葉を服膺し、職場をまもり、社業の發展を期することが我々に與へられた國家への奉公の道である。

生れて五ヶ月、我々職員會は出發の意義を失つてはならぬ。

(永由生)

## 建議案はどしく實行する

—古野會長支社局長會議で言明—

去る一日から開かれた支社局長會議で古野社長は訓示のなかで職員會に關し、次の如き發言をされ、「實行可能なものはどしく實行に移す」旨表明されたことは我等職員會にとつて大きな欣びであるとともに社長の意を體して今後一層の努力を期せねばならぬと責任を痛感するものである。

先般職員會幹事から、私の手許に所謂下意として上通された建議案件は本社約三百件、地方七十四件でありました。これ等については今日まで一通り拜見しましたが、この中實行可能なものはどしく實行に移して行きたいと思ひ、本社の中から更に詳細なる具體案として提出されましたものに

十月初めまでに、幹事の手許に集つた各地區(本社を除く)よりの建議案は八十四件に達した。これ等の大部分は既に會長古野社長に上通してある。

建議案を通覽すると、既に本社の各社から提出されて具體案を纏めて總務局や編輯局で實行に移したものが、或は今後實行せんと折角計劃中のものもある。本社地方を通じて建議案が、期せずして同じものが提出されたことは全社員の要望するものがどこであるか、といふことが明確になつたのであつて、この點會長はじめ社の幹部のよき參考となつたことと思はれる地方の建議案中同一のものがある以上になつたのを拾ふと次の如くである。

## 地方各區の建議案項目

- 一、支社局長の本社見學(神戸、關門、熊本、長崎、臺北、釜山)
- 二、本社支社間意思疏通の機を與へよ(聯絡會紙の如き)
- 三、社報の内容改善(福岡、關門、鹿児島、大阪)
- 四、本社幹部の地方巡廻(神戸、關門)
- 五、本社地方人事の交流(神戸、大阪)
- 六、社旗の制定(福岡、關門)

## △社業の改善に關するもの

- 一、支社局長の本社見學(神戸、關門、熊本、長崎、臺北、釜山)
- 二、本社支社間意思疏通の機を與へよ(聯絡會紙の如き)
- 三、社報の内容改善(福岡、關門、鹿児島、大阪)
- 四、本社幹部の地方巡廻(神戸、關門)
- 五、本社地方人事の交流(神戸、大阪)
- 六、社旗の制定(福岡、關門)

## △厚生施設に關するもの

- 一、社服の制定(横濱、高知、鹿児島、福岡、關門、大阪)
- 二、金融機關の設置(横濱、岡山、廣島、高知、大阪)
- 三、子女手當適用年齢の延長(神戸、名古屋、福岡、大阪)

- (同) 支局員の厚生施設開設の件(京阪神に共同サンマーハウス施設(神戸))
- (同) 本社幹部の地方支社局巡廻
- (同) 支局員の本社見學許容の件
- (同) 支社、地方人事交流の件(同)
- (同) 本社に國民指導の遊説部創設の件(同)
- (同) 妻子手當の適用範圍撤廢の件
- (同) 妻子手當の適用範圍を滿二十歳迄擴張の件(同)
- (同) 無電係の連絡部に對する積極的協力要望の件(同)
- (同) 記者のエキスパート養成案
- (同) 定期的なブロック編輯會議開

## △自肅運動の投書を歡迎

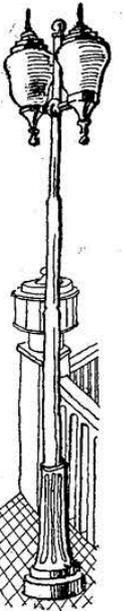
自肅運動をとりあげて先月の紙上で全社員の協力をお願いした、協同精神の昂揚、時間的勵行、物資愛護と清潔などが主たるものであつた、各職場はこの提唱を如何に實踐してゐるか、またどうすればよいか、氣のついた點を投書されたし。

催の件(同)  
夜勤料、早出料其他手當統一の件(同)  
互助會費半減希望(神戸)  
制服制定並に女子事務服支給の件(同)  
地方社員教養促進の件(バンフレット發行、指導員派遣、職員會機關誌發行)(岡山山)

- (同) 互助會々費引下げの件(同)
- (同) 不時の出費に備へ社員金融機關設置の件(同)
- (同) 制服制定の件(同)

## △第四區(福岡)

- 一、新聞社内設置下關支局を獨立せしめる件(關門)
- 一、社長の地方支社局巡視の件(同)
- 一、同報無線と専用電話の連絡送話の件(同)
- 一、同盟ニュースの指導強化の件(同)
- 一、物品購入の検討(同)
- 一、重大發物ある際秘極内容速報要望の件(長崎)
- 一、功勞年金給付に關する件(勤續二十年以上の者停年又は後に死亡せる際の給付如何)
- 一、記事の重點主義に關する件(鹿児島)
- 一、少年雇員の給與並に制服の件(鹿児島)
- 一、鹿兒島、出征職員の時昇給並に應召の件(福岡)
- 一、専用線擔當者會議開催の件(同)
- 一、子女要學資金手當支給の件(同)
- 一、同盟服並に同盟帽制定の件(福岡、關門)
- 一、社報の内容紙面改善の件(福岡、關門、鹿児島)
- 一、職員健康保險制度を全社員に及ぼす件(福岡、熊本)
- 一、地方勤務者の本社見學(關門熊本、長崎)
- 一、體育向上に關する件(海の家山の家)(福岡)
- 一、社旗制定の件(福岡、關門)(以下六頁へ續く)



# 青年團報

## 偉い人になれ

參與 小畑忠良

偉い人については色々見方が  
あると思ふが、先づ自分より離れ  
た遠い所の事を自分の事と同じ様  
に考へる、其れが偉い人であると  
自分は思ふ。自分の身體を傷つけ  
たり、また自分の損になる様なこ  
とをする等は自分の事であるから  
直ちに止めるものである。更に父  
母の病氣を心配するが如きことは  
當然であらう。

而し自分の勤めてゐる同盟通信  
の事を考へ、自分の行爲が同盟の  
名譽を傷けはしないか、またこん  
な事は同盟の世界通信社としての  
任務を高める事かどうかを考へる  
様になれば大部偉くなつたと言へ  
るであらう。更に進んで自分の身  
體や父母の事を考へるが如く、ま  
た同盟の事を考へるが如く、日本  
の、また東亞の事を考へる様にな  
れば確に偉い人と言ふ事が出来る  
識見を高邁にし、高い所に立つ  
て、廣く見渡す事も、偉い人には  
る爲には必要である。

此の點に於いて諸君は大變恵ま  
れて居ると思ふ。諸君が社員の人  
々の間にあつて、日々見聞する事  
柄は、日本はどうか、世界はどう  
かと言ふ風に、廣く遠い事柄ばかり  
である。諸君は實に都合の良い  
立場に居るのであつて、偉大なる  
英雄になる機會に大いに恵まれて  
居ると言はねばならない。

今日、日本は非常に忙しく動い  
て居る。日常の生活にも色々な不  
自由、不幸がある。日本は今東亞  
の新秩序の建設をやつたつあり、此  
の新秩序建設をやらなければ日本  
は亡びるのであつて、現下の不自  
由はすべて此の爲である。だから  
かかる不自由を克服して初めて日  
本は建國の理想に到達し得るので  
ある。

さて東亞新秩序建設と言ふのは  
今迄の順序は間違つて居るから、  
此を止めて新しい秩序を建設せん  
とすると言ふ事である。而して今  
迄東亞における秩序は一體どう云  
ふ風であつたかと言へば、英米が  
上席について、他の東亞の民族は  
之に酷使せられて居たと云ふこと  
が出来た。此ではいけない。日本  
が東亞新秩序を言ひ出したのは、  
此の點にある。此の順序を變更し  
て新しい順序を作り、東亞の一番  
の先達である日本が東亞の諸民族  
の相談を受け、其等を指導し率ひ  
て、居候の歐米人を、東亞の住民  
の言ふ事に従はせてしまふと言ふ  
のが東亞新秩序である。

そして新秩序建設の爲には今迄  
庇を借りて、母屋迄來て居た歐米  
人から、母屋を取戻さねばならぬ  
日本が先頭に立つて、よりよき政  
治、經濟、文化の生活を東亞の虐  
げられたる東亞諸民族に與へる事  
が新秩序の根本である。

此の東亞新秩序建設を計らんと  
すれば、日本の經濟力を向上させ  
ねばならぬ。そして日本の工業力  
を非常に發展させ、東亞共榮圏内  
の產物は皆、日本で消化し、日本  
で出来るものは總て分け與へてや  
らねばならぬ。それでこそ東亞の  
盟主として新秩序を建設する事が  
出来、東亞共榮圏内にあるもの總  
てを實力を以て維持して行けるの  
である。

大和民族の將來を考へるならば  
どうしてもわれわれは奮起しなけ  
ればならない。そして現在こそ、  
（於本社第一回講演會）

### 防空防火の訓練と講演會

本社青年團では九月七日午後三時半より防空、防火の訓練と  
講演會を行つた。先づ大平副團長よりの訓示あつて、用度係員  
より各種消火器の操作方法、充填藥品の取換方法、其他につい  
て詳細なる説明あり防毒マスクの操作訓練を行つた後、道路上  
に用意せる燃焼物に點火、これに各種消火器を順次使用夫々の  
特色を發揮最後にはベケツ部隊も出動、有意義裡に訓練を終了  
次いで講堂において防衛總司令部參謀大坪中佐の防空、防衛  
に關する講演を聞き終つて一同握り飯に舌鼓を打ちつゝ懇親會  
に移り先づ大坪中佐立つて國民歌「そうだその意氣」その他を  
友人はだしの美聲で歌ひやんやの拍手を受ければ團員も負けず  
に詩歌やヴァイオリン、尺八等夫々得意の隠藝を披露し、一同  
和氣満々裡に午後八時半散會した。

### 本社各班毎に常會開く

本社青年團では團員の向上親睦  
を圖り併せて團員の聲を聞くべく  
去る九月九日より二十四日迄毎日  
午前九時半より約十五分間、午後  
四時半より約二十分間の二班に分  
けて全班は夫々日割順に各班常會  
を開催した。大平副團長は各班常  
會毎に出席、左の如き訓示を行ひ  
常會の指導に當つた。

**大平副團長訓示要旨**

一、班常會は毎月二、三回十分間  
程度でもよいから開いてお互の  
親睦と向上を計らう。

一、班長は常會を開いた際必ず班  
員の出、缺を調べ欠席者の事由  
等を調べて班長手帳に記入して  
置くと共に常會の記録を副團長  
に提出すること。

一、講演會、團體訓練等行はるゝ  
際班長は班員を點呼した上これ  
を引率して場内に入り欠席者に  
ついてはその事由を届け出させ

ること。それは規律を守ること  
は團體生活の基本であるから是非  
實行されたい。又無斷缺席し  
た者に對しては規律を紊す者と  
看做す。

一、諸君はこれから國家に盡す大  
切な人であるから特に身體に注  
意し身體を丈夫にせねばならぬ  
身體の具合の悪い者は速かに班  
長にその旨を告げ幹事を通して  
相談してくれば健康診断その他  
適當の措置を講じてあげる。

一、學校の成績も一應役員の方で  
も知つて置く必要がある故時々  
成績表をみせて貰ふ。

九月二十日午後七時より櫻團長  
以下全團員參集、常會を開き團長  
より團員の心構へおよび事務の圓  
滑運営について注意あつて意見交  
換に入り各自熱心に所見を披瀝し  
た。尙ほ最近事務繁忙の爲め絶  
されて居た速記講習を復活するこ  
とならびに今後の團行事に就いて  
決議し九時散會した。

### 金澤支局常會

本社 第六班 加藤 良助  
海の家鍛錬が終つて夏が去つ  
た。

さあ秋だ。稔りの秋だ。  
年寄は秋冷と云ひ、インテリは感  
傷と云ふけれども、秋こそは青年  
の絶好の鍛錬期だ。

さて、この秋はこの健康をどう  
練成して行かう。歩くことだ。歩  
くことは自然で健康的だ。特殊の  
技能も要しないし、身體を不平均  
に行使して健康を害し、病氣を誘  
發することもない。僕等が班を單  
位として活動するのに最適だ。野  
球の設備も出來て素晴らしい。大  
いに活用したいが、餘り一般的で  
ない爲にやれない人は、少しの時  
間と費用を有効に使つて野外を歩  
くことだ。

僕は夏休みの後半を活用するた  
め鍛錬道場を求めて八ヶ岳を登つ  
たが色々な收穫は別として、一番  
嬉しかつたことはあの二日の強行  
を敢てしても、さ程の疲労を感じ  
ない身體になつてゐたと云ふこと  
だ。あれ程の登山をやつて、而も  
尙愉快に歸つて來られたと云ふこ  
とは一に平生から、歩く鍛錬  
を怠ななかつたからだと思ふ。こ  
の備かな體驗からも、『心身の鍛  
錬は歩くことによつて完成する』  
と、考へさせられたのだ。歩け!

**職業**

本社 二十四班 鴛尾武治  
己の分に應じ、しかも己の天  
分なりと信ずる職業に、忠實に、  
全精神をこめて働くこれは一つの  
大きな幸福ではなからうか。期早  
くから呼び歩く納豆屋も、これ  
が眞に己に適した職業だと信ずる  
してゐる時、必ず愉快を感じ幸福  
を味ふであらう。

即ち職業は我々人間にとつて一  
つの眞の幸福、快樂を與ふるもの  
である、職業は「神が人類のみに  
與へ給ふた贈物である、神聖な贈  
物である」と考へ得られる。

なる程職業には政治家、學者な  
どの如き知能を要するものもあれ  
ば労働者、農夫のやうな肉體的職  
業もある。此等の職業に貴賤の別  
を立てる事がどうして出來よう。  
政治家にしろ農夫にしろ皆職業は  
尊い。然るに往々職業に貴賤の区  
別を立て、或職業を蔑視する人が  
ある。斯くの如き人こそ己の眞の  
職業を見出す事能はず、徒に虛榮  
に憧れ、失敗を招き、何等の幸福  
をも感ぜずして此の世を送るじ哀  
れな人である。

### 青年の聲

#### 歩け、歩け、

本社 第六班 加藤 良助  
海の家鍛錬が終つて夏が去つ  
た。

さあ秋だ。稔りの秋だ。  
年寄は秋冷と云ひ、インテリは感  
傷と云ふけれども、秋こそは青年  
の絶好の鍛錬期だ。

さて、この秋はこの健康をどう  
練成して行かう。歩くことだ。歩  
くことは自然で健康的だ。特殊の  
技能も要しないし、身體を不平均  
に行使して健康を害し、病氣を誘  
發することもない。僕等が班を單  
位として活動するのに最適だ。野  
球の設備も出來て素晴らしい。大  
いに活用したいが、餘り一般的で  
ない爲にやれない人は、少しの時  
間と費用を有効に使つて野外を歩  
くことだ。

僕は夏休みの後半を活用するた  
め鍛錬道場を求めて八ヶ岳を登つ  
たが色々な收穫は別として、一番  
嬉しかつたことはあの二日の強行  
を敢てしても、さ程の疲労を感じ  
ない身體になつてゐたと云ふこと  
だ。あれ程の登山をやつて、而も  
尙愉快に歸つて來られたと云ふこ  
とは一に平生から、歩く鍛錬  
を怠ななかつたからだと思ふ。こ  
の備かな體驗からも、『心身の鍛  
錬は歩くことによつて完成する』  
と、考へさせられたのだ。歩け!

# 勳蒸る金子軍曹

名古屋支社

第十回生存者論功行賞で功六級青色章の恩命に浴した金子正夫軍曹は名古屋支社通信部長で、吾が社二人目の殊勲者である。

論功功示のあつた日、例によつて名簿を整理するうち、幾多殊勲者の中から燦と輝く「金子正夫」の文字を見出した時には、ドツと社内に歡聲が湧いた。



金子君祝賀會

め徐州、大別山、武漢、襄東會戰に通信班員として参加、常に前線と本部の連絡を完遂し作戦を有利に導き、又司令部附となつては陣中ニュースの發行に、腕に覺えの速記術で活躍、こゝでも大同盟の存在を遺憾なく誇示したのである。尙支社では論功發表の日、さゝやかな祝賀會を開いた。

## 光榮に浴して

金子 正夫

私は只命令に對し私の少數の分隊員と共に只管任務の完遂をのみ

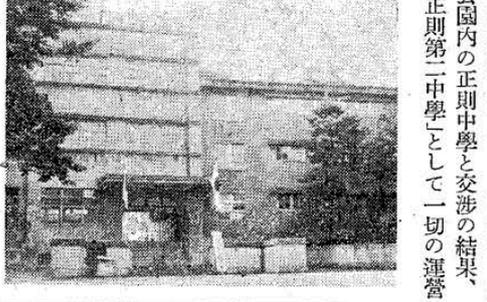
念じつゝ戰場を馳驅したに過ぎない。その私にこの破格の榮。綴る言葉もなく、聖恩の深きに感泣するのみである。

## 青少年に福音

正則第二中學開設

同盟本社に於ては豫て青少年従業員の教育に就いて考究中の處、この程夜間中學の設立を認可せられ、去る九月、授業を開始するに到りました。同校の課程は國民學校初等科卒業後五ヶ年で其の程度は全く普通の中學と同じであります。

授業は午後五時二十分より同九時五分迄、毎日四時間、一週二十四時間で、夜間ではあります。完全な中等教育を行ふ事が出来ると思はれます。

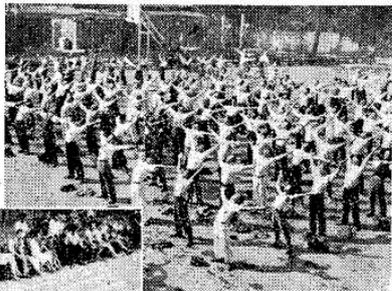


し得たところのものではない。偏へに上官の指導鞭撻と渾らぬ戦友愛と後顧の憂を断つて私をして悦んで死地に飛び込ませてくれた統帥先輩諸君の熱烈なる御後援の賜物に他ならない。

本社青年團では秋の鍛錬として十月五日芝公園内正則中學(九月より開校した同盟夜間中學)校庭に於て體育大會を開催。

## 本社青年團體育大會

ヤの拍手爆笑を買った。續いて當日の呼物各代表九名の假裝行列競演はその見事な扮裝に観覧者をアツト云はせ乞食、虚無僧、支那兵、大黒、交通巡査等々身振りよろしく場内を笑ひと拍手の嵐に捲込み結局經濟局代表渡邊君の乞食が一等に入選。かくて内勤者と送部關係對抗綱引を最後にスポーツ精神を遺憾なく發揮して十八種目に亘る全競技を終了。大平副團長の閉會の辭次いで鷹嘴顧問の發聲で天皇陛下萬歳、舟木顧問發聲で同盟本社青年團萬歳を三唱午後二時半盛會裡に終了した。



を同校に委託しましたので、短時間の間に待望の中學が設立され、同盟青少年の教育に大きな光明をもたらしました。

開校と共に第一學年生百名を募集しました所、應募者は八百六十名に上り、優秀な者が選抜出来た。勿論全生徒が同盟の少年ではないが、此に依つて同盟青少年従業員の身心の練成に大なる役割を果すものと確信します。

## 東京、長野間に専用線開通

かねて工事中であつた東京、長野間同盟専用電話線は今般愈々竣成し、試験の結果頗る優秀な成績を得たので十月一日より正式開通を見るに至つた。

同盟長野支局は曩に同報社線受信施設に依りニュース速報上一大進歩を示したが今般開通の

## 經濟局議題

- 一、産業別通信(金屬、纖維、海運)に對する讀者の批評と改善を要する點(内容、發送、勧誘等について)
- 二、内地株式通信に對し改善を加ふべき點(電話並びに同報無線)
- 三、商業通信に對する購讀者の批評と改善すべき點(内容、發送、勧誘等に就て)
- 四、六大都市以外の各地に於て發行しつゝある通信に對し内容其他に改善を加ふべき點
- 五、經濟讀者勧誘獎勵金制度に對し檢討を要すべき點

## 調査局議題

- 一、地方事情報告と輿論調査の件
- 二、調査資料蒐集の件
- 三、同盟出版に關する件
- 四、特信原稿に關する件

## 總務局議題

- 一、職員健康保險の件
- 二、人事處理の件
- 三、互助會規程改正の件
- 四、文書處理の件
- 五、會計處理の件
- 六、社費月額調査の件
- 七、業務統一の件
- 八、映畫館に對する放送ニュース供給の件
- 九、講習所の件

## 地方へお願ひ

最近地方支社局の消息が餘り載らぬ様です。仕事の記録同人消息等なるべく豊富にお送り下さい。但し餘り長いものは困りますから十五字詰十行の原稿用紙三枚乃至五枚程度のもの(社報編輯係り)

△甲府支局移轉  
今般甲府支局は左記へ移轉  
甲府市白石町二八八番地  
法人 同盟通信社甲府支局

△豊橋支局移轉  
今般豊橋支局は左記へ移轉  
豊橋市札木町五十五番地  
(豊橋同盟新聞社内)  
法人 同盟通信社豊橋支局

人事

九月

海外へ

堀川武夫(編輯)
水野政直(同)
倫敦支局へ
黒澤俊雄(調査)
伯林支局へ
小田善一(編輯)
近東地方へ出張

海外より

阿部隆(中支)
友枝宗遠(伯林)
本田良介(イスタンブル)
杉山俊次郎(中支)
編輯へ

国内

坂口榮(調査局出版部
次長兼同部營業主任)
總務局(部次長待遇)へ
北原晴光(大阪)
通信局へ
黒石壽(通信)
大阪へ
布利幡兼雄(函館)
長野へ
早津三郎(長野)
通信へ
藤田令允(大阪)
大脇孝(同)
坂東安正(京都)
社員とす
橋口鐵夫(大阪)
岡田富美子(神戸)
周原光郁(清津)
准社員とす

新入社

樋下聲(札幌)
中宮博(同)
樋口義重(富山)

伊藤卓二(總務)
太田政次郎(編輯)
吉田節(經濟)
渡嘉敷唯信(同)
河村清(關門)
湯川博(札幌)
大田巧(廣島)
東條長生(福岡)
白砂妙子(經濟)
代居恒夫(京城)
木場武雄(關門)
江崎信雄(通信)
佐藤勝雄(同)
以上社員試用

死亡

谷川佳雄(大阪)
佐々木健兒(北支總局華文部長)
北支總局長兼北支總局華文部長及英文部長
大川幸之助(北支總局長兼英文部長)

結婚

吉野源六(神戸)
西川恒喜(福岡)
山本守(通信)

出生

栗田深(名古屋)
加藤萬壽男(調査)
菱刈隆文(編輯)長女
永松泰次郎(經濟)三男
臘山芳郎(孟買)
進藤陽吉郎(總務)長女
小澤武二(通信)
湯田保司(函館)長女
有馬靜夫(編輯)長男

見舞

小野勝三郎(經濟)病
齋藤隆(調査)病
東英敏(神戸)病
兒島又喜(熊本)病
奥村芳枝(經濟)病
山下政子(鹿兒島)病
内田眞雄(編輯)病
杉田才一(總務)次女病
山本憲吾(編輯)病
近藤公一(大阪)病
金井洗耳(經濟)病

其他

木村均容(通信)
木村均容と改姓



同盟の國策宣傳

中屋健式

比島に於ける

松本兼吉(總務)
松本愛子(大阪)
池口光治(大阪)
龜井光太郎(關門)
藤原登久子(大阪)
矢野英仁(長野)
大隈俊一(福岡)
知久義雄(編輯)
田中豐子(總務)
長谷川久平(總務)

米田義一(大阪)
淺野誠市(調査)
池田雄藏(調査)夫人死亡
小川恒次(關門)祖母死亡
谷川佳雄(大阪)本人死亡
布浦芳郎(編輯)實父死亡
布浦富美子(總務)
足立誠市(編輯)長女死亡
日下部吉郎(總務)養母死亡

イスは米國種や歐洲戰爭以上に歡迎されるので掲載率は極めて良好
これ等の宣傳工作は誠に幼稚な範圍を脱しないが、比島に於ては頗る大きな効果をあげてゐる。殊に費用を同盟として一文も出さずにやるといふ點で自ら制限されてゐる譯で、金さへ即ち宣傳費さへ充分にあればまだいくらかでも擴張出来るのだが、在留邦人の有力者なる者が金を出すことはおろか、その仕事自身に反對するものが多い現状では、華僑の比島に於ける宣傳工作とは比較にならぬ貧弱なのを免れない。この點、マニラに於ける同盟の仕事が妨害したものは米國側でも比島側でもなく實に邦人商社であつたといふことが言へ、將來の南方國策遂行上かゝる非國民的在留邦人の頭の改造が急務であるように思はれる。

第五區(札幌)

樺太北海道地方主要地に記者常駐の件(札幌)
事務能率の増進について(岩永規程をもつと緩和せる優秀職員表彰)(同)
現行互助會制度の再検討(同)

第六區(臺北)

臺北支局を支社に昇格要望の件(臺北)
本社總支社局間聯絡緊密化(地方社員に本社を見學せしめよ)(臺北)

第七區(京城)

大陸線障害除去の件(京城)
社員診療施設設置の件(朝鮮にも職員健康保險組合の如き恩恵ありたし)(同)
注意事項取扱方統一の件(同)
大陸線正午一分間休止の件(釜山)
第七區内に班長又は支局會議開催の件(同)
本社見學の機を與へるの件(同)
無電機巡回診療の件(同)

比島人は宣傳を盲信するといふ缺點を持つてゐる。比島政府の相當な地位にある男でさへ、新聞に掲載された外電を根據にして堂々と國際政治を論じ、新聞論調も亦通信社のニュースを丸呑みにして「堂々」の筆陣を張るといふ譯である。それに米國側の取締は新聞やラヂオ放送に對しては極めて寛大で、假令樞軸國側の宣傳でも合法的であれば、彈壓するに「合法的手段」を以てするといふ紳士的態度をとつてゐる。かゝる點に注目する時同盟がマニラを中心として宣傳戦を開始したことは當然過ぎるもので、この點に於ては比島が南方諸國の中特殊の例外的事情を占めてゐるといふことが云へる

先づ開始したのは、同盟ニュースによる英字新聞(毎日曜夕刊)の發行である。これに對しては比島政府側の彈壓方針の風當りが誠に強く屢々危機に逢着したのであるが、米國側がその眞意を諒解するに至つて壓迫は緩和され、比島側が不法なる壓迫を加へる時は米國側が却つて比島側を宥めるといふ珍現象を呈したこともある。部数は約二千五百、約一千部が日曜午後市内で販賣される。編輯方針は日曜夕刊紙らしく極めて派手で寫眞を多數利用し、比島の都會人を對象としてやつてゐるが、その効果は頗る大である。既に一年四ヶ月を経、信用も確立した。

次にラヂオ放送を去る二月以來開始してゐる。これはマニラのKRZR放送局から午後七時十五分より十五分間英語で、又午後八時四十五分より十五分間スペイン語で同盟ニュースを國內放送するものである。マニラの放送局は金を出しても差支ないのだから、表面はマニラの邦人會社の廣告とし同盟ニュースを放送してゐる。新聞ニュースとしては比島はA Pのテリトリーであるので、同盟の對支對米英文放送をプレスワイヤレスをして受信せしめこれをA Pのクレディットで新聞社に配給してゐるが、比島では日本のニユ